

信州産学官連携インターンシップ

～ インターンシップの実習内容・
プログラム作成の手引き ～

信州産学官ひとづくりコンソーシアム
令和8年1月

1. インターンシップとは？

学生が就業体験を通じて、将来の仕事やキャリアに対する意識を高め、仕事を選択するための知識を身につけること

(1) 企業にとっての効果・メリット

① 企業理解の促進

学生と企業等との接点が増えることにより、インターンシップを受け入れる企業に対する学生の理解が進みます。また、関連業種全体の理解が促進されます。

② 社員の人材育成

インターンシップの受入を通じて、社員の意識向上や指導担当社員の能力向上が図れます。

③ 職場の活性化

若者を受け入れることで職場に良い刺激が生まれ、意外と気づいていなかった改善点に気づくなど、活性化につながります。

④ 大学との関係強化

インターンシップ受入により大学関係者と会話する機会を得、大学と連携を深める、あるいは新たに関係を築くきっかけとなります。

1. インターンシップとは？

(2) 大学教育、学生にとっての効果・メリット

① 職業意識の醸成

学生が企業等において、就業体験をすることにより、卒業後の自らの職業選択や適性を考える機会となり、高い職業意識の醸成が期待されます。

② 教育への反映

企業等の活動を見学・体験するなかで、日頃の大学での学びとの関わりを感じることにより、新たな学修意欲を喚起する機会となります。

③ 社会人としての資質の向上

企業等で接する社員の就業態度と、自らの姿勢を照らし合わせることで、社会人としてのあるべき姿を見出し、それに向けて努力しようとする気づきの機会となります。

2. 学生にどんな体験をしてもらうか？

インターンシップを効果的に実施するために

「職業意識の醸成と学修意欲の喚起」する内容

3つの要素を組み込む

① 座学・オリエンテーション

○企業・業界に対する理解

② 実務体験

○働くことの意義を知る

○仕事の楽しさを知る

○職業人の責任と心得を知る

③ 振り返り・懇談の時間

○大学で学んでいることが、職業においてどのように役立つか

○よく役立てるため、大学でどのように学べばよいか



3つの基礎力を身に着ける契機にする。

「前に踏み出す力(アクション)」

「考え抜く力(シンキング)」

「チームで働く力(チームワーク)」



新たな学修意欲の喚起

3. どんなインターンシップがあるか？

(1) 職業体験型インターンシップの基本パターン

項 目	内 容 例	
1.期間	1週間(5日)以上	
2.基本パターン	座学・見学 ➡ 実務研修 ➡ まとめ・フィードバック	
(1)座学・見学	1日目《 午前 》 ・オリエンテーション ・会社概要、事業、業界の説明	1日目《 午後 》 ・社内各部署と実習職場の見学
(2)実務実習	2日目～4日目 ・実務実習	
(3) まとめ	5日目《 午前 》 ・レポート、発表資料の作成	5日目《 午後 》 ・報告会 ・社員との意見交換(フィードバック含む)

(注)上記期間は基本パターンです。実施日数は各企業の状況により柔軟に設定してください。

3. どんなインターンシップがあるか？

(2) 課題解決型インターンシップの基本パターン

項 目	内 容 例	
1. 期間	1週間(5日)以上	
2. 基本パターン	事前課題 ➡ 企業見学 ➡ 学生から企業へ提案 ➡ 学生間のグループワーク ➡ 学生プレゼン ➡ まとめフィードバック	
(1) 事前課題	・事前学習として企業研究 ・企業が抱える経営課題を若者(学生)の視点で考案。	
(2)座学・見学	1日目《 午前 》 ・オリエンテーション(会社概要、企業見学)	1日目《 午後 》 ・学生から企業へ事前課題の提案
(3)グループワーク	2日目～4日目 ・グループに分かれてワーク。	
(4) まとめ	5日目《 午前 》 ・発表資料の作成	5日目《 午後 》 ・プレゼン・まとめ ・社員との意見交換(フィードバック含む)

(注)上記期間は基本パターンです。実施日数は各企業の状況により柔軟に設定してください。

4. インターンシップ受入事例（職業体験型）

（1）製造業の事例

【製造業】

		午前	午後
1日目	座学	オリエンテーション 会社概要、業界の説明	実習スケジュールと実務実習の説明 工場内の見学
2日目	見学	社内各部門の見学	実習職場の見学
3日目	実務実習	①汎用旋盤作業の見学 ②旋盤による内径加工作業	①汎用旋盤作業の見学 ②外径と面取り加工作業
4日目		①テーパと面取り加工作業 ②コンターマシンでの切断作業	①端面・内径・外径加工 ②製造機械部品等ダンボール詰め
5日目	まとめ	実習まとめ・レポート、発表資料の作成	実習報告会 質疑・応答・講評

4. インターンシップ受入事例（職業体験型）

（2）販売業の事例

【販売業】

		午前	午後
1日目	座学	オリエンテーション 会社概要、業界の説明	実習内容と作業上の注意事項の説明
2日目	見学	店内各部門(売場・バックヤード)見学	実習部門(売場・バックヤード)の見学
3日目	実務実習	①陳列・補充作業の見学 ②陳列・補充作業の実践訓練 ③トレーナーと売場手直し、補充 ④作業基本動作、陳列基本作業	①接客用語の訓練 ②商品案内、商品説明の訓練 ③商品の検品、検収作業の手伝い ④陳列、補充、清掃作業
4日目		①朝の陳列作業 ②朝の売場補充作業、手直し ③発注作業補助 ④売場、バックヤード清掃作業	①商品販売実習、売場での売り込み ②生鮮部門の商品化作業の実習 ③パッケージ、小分け、加工作業 ④売上記録表の作成
5日目	まとめ	実習まとめ・レポート、発表資料の作成	実習報告会 質疑・応答・講評

4. インターンシップ受入事例（職業体験型）

（3）印刷・出版業の事例

【印刷・出版業】

		午前	午後
1日目	座学	オリエンテーション 会社概要、業界の説明	実習スケジュールと実務実習の説明
2日目	見学	各部署(実習職場)の見学	各部署(実習職場)、工場の見学
3日目	実務実習	①総務 受付、電話対応の練習と実践。電話、 来客対応マニュアルの作成。各種帳票 書類整理。	①組版業務 組版業務について説明。書籍製作の 初期データ処理及び整形。
		②生産管理 生産部門と社内設備等の説明。生産 管理部門の流れについて説明。	②プリプレス 製版用データの説明。オンデマンド印刷 の説明及びノート製作。プレス補助業務。
4日目	実務実習	①企画開発 企画開発課の説明。HTMLを使用した 自己紹介H/Pの製作。	①製本業務 製本業務について説明。印刷物の仕分け、 発送等の軽作業。各種伝票処理業務。
		②印刷 印刷課の説明。印刷機等各種機械の 見学、操作説明。	②営業 営業部門についての説明。当社製品の 企画検討。得意先への提案同行。
5日目	まとめ	実習まとめ・レポート、発表資料の作成	実習報告会 質疑・応答・講評

4. インターンシップ受入事例（職業体験型）

（４） 宿泊業の事例

【宿泊業（ホテル）】

		午 前	午 後
1日目	座 学	オリエンテーション 会社概要、業界の説明	実習スケジュールと実務実習の説明
2日目	見 学	館内各部署の説明と各スタッフ顔合わせ	館内各部署の説明と各スタッフ顔合わせ
3日目	実務実習	①フロント カウンターで宿泊客のチェックインとチェックアウト対応。宿泊予約の確認や管理。	①フロント カウンターで宿泊客のチェックインとチェックアウト対応。宿泊予約の確認や管理。
		②ベルパーソン チェックイン手続きを終えたお客様の客室までの案内。荷物の保管とチェックアウト時車までの荷物運び。	②ベルパーソン チェックイン手続きを終えたお客様の客室までの案内。荷物の保管とチェックアウト時車までの荷物運び。
			③ドアマン ホテル正面玄関、入口でのお客様送迎。車の誘導、館内案内。タクシーの呼び出し。
4日目		①コンシェルジュ見学 お客様の要望や館内問い合わせ対応。レストラン予約、観光案内、新幹線の切符手配など、コンシェルジュ業務の理解。	①レストラン業務 お客様を席までご案内など接客。メニュー説明やオーダーテイク、料理提供業務。後片付けや洗いの作業。
		②レストラン業務 お客様を席までご案内など接客。メニュー説明やオーダーテイク、料理提供業務。後片付けや洗いの作業。	②ハウスキーピング 客室の清掃やベッドメイキング。備品の補充、部屋の点検。風呂、トイレ、洗面所の清掃。
5日目	まとめ	実習まとめ・レポート、発表資料の作成	実習報告会 質疑・応答・講評

4. インターンシップ受入事例（職業体験型）

（5）福祉・介護施設の事例

【福祉・介護施設】

		午前	午後
1日目	座学	オリエンテーション 施設概要、介護事業の説明	実務実習の説明 利用者対応の注意事項の説明
2日目	見学	デイサービス施設の見学	ショートステイ施設の見学
3日目	実務実習	①利用者とのコミュニケーション ②レクリエーションの手伝い、配膳の手伝い、お茶・おしぼり配り ③利用者をリハビリ室への誘導	①利用者とのコミュニケーション ②配膳の手伝い、お茶・おしぼり配り ③おむつ交換、ひげそり補助
4日目		①理髪室への誘導 ②トイレへの誘導と介助 ③お風呂への誘導と介助 ④リハビリ室への誘導、リハビリ補助	①利用者とのコミュニケーション ②オカリナ演奏会の手伝い ③自立訓練、歩行訓練補助 ④食事の介助、後片付け、洗濯
5日目	まとめ	実習まとめ・レポート、発表資料の作成	実習報告会 質疑・応答・講評

5. インターンシップ受入事例（課題解決型）

(1) 製造業・旅行業の事例

【事例1：製造業】新しい製品づくりの企画（グループワーク）

新たな製品づくりの企画、広報までを一連の流れで行います。
グループで役割分担をし、それぞれの担当分野の提案を持ち寄って一つのアイデアとする。

自分が担当する役割があることで、責任感を持ってワークに取り組めます。
他の人の意見に触れることで新たな気づきもあり、自分の強み弱みなどに気付くこともでき、自身の成長に繋げることができます。

【事例2：旅行業】観光ツアー企画（一人可・グループも可）

約2時間の観光コースを作成する。地域の魅力発信。
計画を自ら体験し、それを企画としてプレゼンする。

自身で考えたプランが、他の人にはどう映るのか、フィードバックを貰うことで、新たな発見もあります。インターンシップを通じて普段できないことを体験することで、学生の学びの幅を広げることができます。

5. インターンシップ受入事例（課題解決型）

（2）対面・オンラインの事例

【事例3：製造業・小売業など】 ～対面～

社内を見学し、商品などを勉強しながら、企画で売り出したいアイテムを選定。販売時期や客層など、日々変化する様々な条件を分析・マーケティング。お客様を引き付ける売り出し企画を立案する。

買う側だった学生が、売り手側の視点を学べる良い機会。様々な数値から分析するマーケティングは、今後働くうえで、とても重要なスキルになります。

【事例4：製造業・販売業など】 ～オンライン～

ワークで使用する資料(物品)をインターン予定者の自宅に郵送する。インターンシップ当日までは開けないよう指示し、インターンが始まると同時に資料を開封。与えられた課題、指示事項をその場で確認しながらオンラインで進めていく。

事前に郵送した資料を「当日でないと空けられない」「その場で開封する」オンラインでも、ドキドキワクワクの臨場感を味わえます。また、課題を進める事で少しずつ仕事や業界への理解を深めることもできます。

6. インターンシップ受入の手順

「信州産学官ひとづくりコンソーシアム」を介したインターンシップ申込から実施までの流れは、以下のとおりです。

全体の流れ

①各企業でのインターンシップ受入の検討



②「信州産学官ひとづくりコンソーシアム」ひとづくり交流デスクに
受入申込シートを提出（ながの電子申請にて申込）



③ひとづくり交流デスクが大学・短大とのマッチングを実施



④各企業と大学・短大との協定締結



⑤インターンシップ実施



⑥評価・報告



令和5年度から大学生等のインターンシップの取扱いが変わります

- 令和4年6月、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（3省合意）を改正し、大学生等のキャリア形成支援に係る取組を類型化するとともに、一定の基準を満たしたインターンシップで企業が得た学生情報を、広報活動や採用選考活動に使用できるよう見直しました。
 （「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」（経団連と大学関係者で構成）が令和4年4月に公表した報告書を踏まえた見直しです。題名も「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」に改めています。）
- この改正は、令和7年3月に卒業・修了する学生（学部生ならば令和5年度に学部3年生に進学する学生）が、令和5年度に参加するインターンシップから適用されます。中小企業やスタートアップ企業においても、職場での就業体験を組み込んだインターンシップの実施を自社の魅力・良さ・仕事のやりがい等を学生に伝える機会と捉え、前向きにご検討ください。

改正のポイント

① インターンシップ等の学生のキャリア形成支援に係る取組を4つに類型化

「インターンシップ」とは称さない

就業体験を必須とせず、「個社・業界の情報提供等」や「教育」が目的

タイプ1 オープン・カンパニー

タイプ2 キャリア教育

「インターンシップ」と称して実施

就業体験が必須 「自身の能力の見極め」や「評価材料の取得」が目的

タイプ3 汎用的能力・専門
活用型インターンシップ

タイプ4 高度専門型インターン
シップ（試行）

② 一定の基準を満たすインターンシップ（タイプ3）で取得した学生情報を、広報活動・採用選考活動の開始時期以降に限り、それぞれ使用可能



【一定の基準とは】

- ・就業体験要件（実施期間の半分以上の日数を就業体験に充当）
- ・指導要件（職場の社員が学生を指導し、学生にフィードバックを行う）
- ・実施期間要件（汎用能力活用型は5日間以上。専門活用型は2週間以上）
- ・実施時期要件（卒業・修了前年度以降の長期休暇期間中）
- ・情報開示要件（学生情報を活用する旨等を募集要項等に明示）

- タイプ1～4は学生のキャリア形成支援に係る取組であって、採用活動ではありません。
 学生は採用選考活動開始時期以降、改めて採用選考のためのエントリーが必要になります。
- タイプや基準の詳細のほか、インターンシップ実施の際の体制整備、安全、災害補償の確保、ハラスメント対応、労働関係法令の適用、受け入れ時の公正性等の留意事項は、3省合意をご確認ください。

3省合意文書



<https://www.mhlw.go.jp/content/1180000/00000049684.pdf>

産学協議会
2021年度報告書



<https://www.sangaku-kyoogikai.org/activities>

産学協議会事務局
解説動画



<https://youtu.be/TofHEDgtd4>

END